令和５年度第２回たちばな支援学校学校運営協議会

令和5年度　第2回　9月27日（水）

出席者：委員9名、傍聴人5名

議題

たちばな応援団（仮称）について
①「はたらく」を応援してくれる応援団募集
②「授業」を応援してくれる応援団募集
③地域企業への学校説明会について

協議した内容

「たちばな応援団（仮称）」について2つのグループを立ち上げたいと考える。

①　「働く」を応援してくれる応援団について

障害のある生徒の進路実現に向けて、応援してくれる企業や事業所に応援団に入っていただきたい。

今回は、本校から多くの企業の方々に説明する機会を作り、「本校の生徒を地域の皆さんに知ってもらいたい。」と考えた。本会会長より商工会に相談する案をいただき、藤田運営委員の協力を経て、4地域の商工会を校長と進路指導部長で回った。その中で、有田市と有田川町の商工会から説明の機会をもらい、協力を仰いだ。

＜生徒の進路学習の様子を写真データで提示したプレゼンの紹介（進路指導部長より）＞

〇学校概要説明

・県内の特別支援学校は10校（視覚、聴覚、知的障害、肢体不自由、病虚弱）
・本校は広川町に建ち、3市8町（海南市～印南町）が校区　・在籍児童生徒は200名
・知的障害・肢体不自由の対象校（自閉症に特化した支援学校はなく、併せ有する生徒は本校にも在籍する。）
・登下校にはスクールバス10台　高等部には19名の自主通学生がおり、自立に向けて公共交通機関や自転車を利用して通っている。北は下津町、南は印南町、東は有田川町清水
・進路先は、主に福祉就労（作業所）
一般就労（企業等）　R2：8人（35%）、R3：3人（19%）、R4：6人（29%）、R5：30%が希望

〇進路指導

1．事業所見学：1，2年時に、企業や事業所を見学し、仕事内容等について説明をしてもらう。また、働く先輩の姿を見学させてもらい、話を聞く。
2．就労体験実習：1，2年時で体験し、実習とはどういうものか、企業で働くとはどういうことか、身をもって知る。将来どのようなところで働きたいか絞り込み、3年に繋げる。
3．就職説明会：進路学習の授業以外に、外部の専門家（ハローワーク就職支援ナビゲーター）から、働くとはどういうことか、今の内に何をしっかり身につけておけばよいかについて、生徒に話してもらう。一般就労を目指す生徒は、11月頃に求職登録をハローワークで行い、1対1で色々話しを聞いてもらい就職に繋げる。
4.職業ガイダンス：企業の方に協力いただき、就職した先輩の頑張っているところや苦労していたところ、今の内にしっかり身につけてほしい力等を生徒に話してもらう。
5.現場実習：3年時に行う本人の進路に向けた実習。「〇〇のこういう仕事がしたい」という本人の希望に添った実習を行い、本人に合ったところを検討しながら就職に繋げる。
※　一般就労を目指す生徒に進路指導をするにあたり、力を貸していただき、一緒に育てていただきたい。

＜質問や意見＞

＊応援団に入る際、書類上だけではなく、ステッカー等を配付すると、次の繋がりや意識も持てるのではないか。

＊協賛費等無料なのはハードルが低くてよいが、逆に、少し会費を出すと意識も違うのではないか。

＊応援団をまとめる企業は、必要ないか。 代表企業が、招集を掛けてくれると、企業同士の繋がりもできると思う。

＊商工会の役員等、心やすい人が担ってくれれば、人の繋がりで広がるかもしれない。

＊他校の体制を調べて、参考にするのも良いのではないか。

＊企業は人材確保が難しく、問題になっている。たちばな支援学校に対して、企業側が感じることは、期待と不安と雇う側の責任である。就労体験で実際に本人と触れると、（この子だったら）来てもらえるな…とか、仕事をしてもらえるな…等感覚で分かると思う。直接対応できる機会が必要。

＊不安の例として、電話の対応等がある。時には怒鳴り込みの電話もある。そんな時、全部受けとめて心の傷になりはしないかと心配する。そんなことも企業側は考えるので、不安について協議できれば、楽というか安心できる。

＊障害者雇用と言ってもひとくくりにできない。採用の経験が、そのまま次の採用者に当てはまらないから難しい。

＊この応援団は、「働く応援」として、採用すれば役割は果たされたことになるのか。

→そういうものではないと思ってる。常に実習や就労を受け入れてもらう感じではなく、長いスパンで、その年には、直接関わらなくても、また、その次の年には、その企業に、興味を持つ生徒が現れるかもしれない。

＊応援団としては、色々な企業があることが、父兄や本人にとって、意義があるということか？ →そう思っている。

＊企業同士の横の繋がりを持つことの意味はあるのか。応援団に入って色んな支援を会社が個人としてやるのであれば、会社とたちばなの繋がりだけでよくて、横はいらないのではないか…。

＊企業間の繋がりは大事と思う。企業間で障害者雇用率を地域で上げていく部分もある。それと、引き受けてくれた企業が、実習の受入等で悩んでいたり、雇用に迷っていたりする場合、意見を交わしたり、工夫について話し合えたりする。そういう繋がりを持ってもらえたら、学校－企業の一方向での放射線状ではなく、ネットワークとして、協力し合える関係になって、生徒や卒業生を支え、次のステップに繋がると思う。

そういう意味で、組織的なものとして、団長のような、とりまとめの部分が将来的には、必要になってくると思う。

＊障害者雇用は採用に関わる人の度量次第、感覚次第、気持ち次第と感じる。私は、障害者の可能性を感じているが、全ての職員に理解されている訳ではないから、この応援団で企業間の話ができれば、雇用が難しいと思われる子も、いい方向に行くのではないかと感じる。

②「授業」を応援してくれる応援団について

ゲストティーチャーとして、地域の方々に協力していただき、「授業」の充実を図りたい。

例えば、「音楽演奏」、「作業製品作りの指導」、「農耕園芸に関する指導」、ボランティアとしてのサポート等

・協力してもらえる方の名前や連絡先、メールを登録させていただき、通信や行事案内を行うことで、本校を知ってもらって、繋がりを強める。 教員等との個人的な繋がりではなく、学校の応援団として、継続した関係を保つ。

・協力していただきたい時に、声を掛けさせてもらう。

③地域企業への学校説明会について

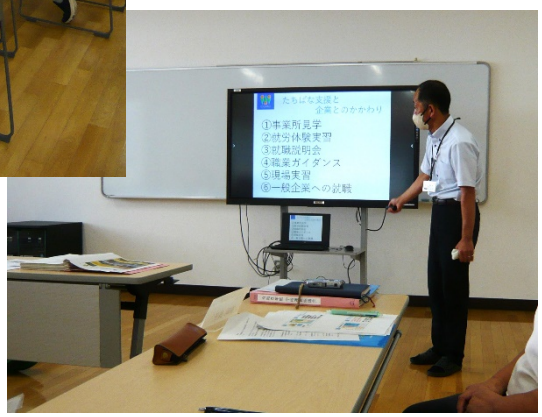
本校を会場とした「企業向け障害者雇用の説明会」を、ハローワークと隔年に実施したいと考える。今年度は本校が、12 月 7 日（木）に開催を予定している。 内容について、意見をいただきたい。

＊学校の中の授業見学、学校や学部の概要説明はどうか。

＊高等部の生徒達が、「こういうのを作りました」や「こういうことができます」と、発表するのはどうか。企業の人が、生徒の能力を知る機会となって、義務的な雇用ではなく、能力を認めた雇用となる体制がつくれるのではないか。

＊委員の皆さんに参加してもらい、卒業生を採用していただいたり、実習でお世話になっていたり、障害者就労促進セミナーで感じること等、それぞれの立場や役割から、会の中で数分コメントをいただきたい。

※各委員からの意見を踏まえ、企業に声を掛け、12 月 7 日は「たちばな応援団」の結成式として準備に向かう。


たちばな実業と
企業とのかかわり
①事業所見学
②就労体験実習
③就職説明会
④職業ガイダンス
⑤現場実習
⑥一般企業への就職